

1. 日時 : 5月9日(金)16:15-17:30
2. 出席者数 : 145名
3. 主な質疑内容:

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。巻末に注意事項を記載しています。－

Q. 精製マージンについて、足元では改善傾向にあるが、マージンの維持、さらなる改善に向けて、今後どのような施策を検討していく予定か？

A. 足元の精製マージンは、石油各社の高度化法対応や春期の定期修繕等により、供給能力が適正化されており、改善しているとみている。今後とも、需要に合わせた適正な供給体制を維持していく。

Q. 2014年度に戦略投資からのリターンとして250億円を予定しているが、セグメント別の内訳はどのように考えているか？また、2015年度にプロジェクトが本格稼働した際には、どの程度のリターンを予定しているか？

A. 2014年度の戦略投資からのリターン250億円のセグメント別のおおよその内訳は、エネルギー事業50億円、石油・天然ガス開発事業100億円、金属事業100億円である。なお、2014年度に立ち上がる戦略投資プロジェクトは、暦年決算会社において、年後半に本格稼働するものがほとんど。2015年度は、フル稼働の状態が安定的に続けば、第2次中計上の目標値である1,100億円のリターンが見込まれる。

Q. 今回の決算発表では、バランスシートの強化策を発表しているが、具体的な内容はどのようなものか？

A. 財務体質の強化と将来のさらなる成長に備え、バランスシートの強化策を講じていく。具体的には、投資の抑制や計画の変更、株式など資産の売却等について、グループの全事業にわたり、様々な施策を検討していく。ただし、資源開発を含む長期的な投資については着実に進めていきたいと考えている。

Q. 第2次中計期間中において、株主還元についての考え方は？今回決算で発表した、バランスシート強化策が還元方針に与える影響はあるか？

A. 第2次中計期間中の株主還元については、既存事業からの安定的な収益の確保および戦略投資からのリターンの実現が見通された段階で、増配を軸とした株主還元の拡大を検討していくという従来の方針から変わりはなく、バランスシートの強化策とは関係ない。

以上

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1)マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2)法律の改正や規制の強化、
- (3)訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。